

美浜、大飯原発クラスター

関西電力は24日、美浜、大飯、高浜原発に勤務する同社と協力会社の社員計14人の感染を発表した。県は、このうち美浜原発と大飯原発の工事現場でクラスター(感染者集団)が発生した

との見方を示した。関電は工事を中断し、関連する協力会社の社員計約120人を1週間自宅待機として検査を進めている。

関電によると、大飯3、4号機のテロ対策施設の設

置工事に従事する9人の感染が判明。調査の結果、一連の感染者は23人になっている。これまで4人の感染が判明している美浜3号機の大型弁定期点検工事関連では、新たに2人の陽性が分かり、累計で6人となった。

県の窪田裕行健康福祉

部長は24日の会見で「県内外からかなりの数の業者が入り、車を乗り合っている現場に向かっているようだ。感染拡大の要因はいくつかあったのだろう」と述べた。

関電では1〜2月に高浜1、2号機のテロ対策施設の設置工事関連で計32人が感染するクラスターが発生。関電は「連日多数の感染者が出て、誠に申し訳ない。保健所と協力し原因究明と対策強化を急ぎたい」とした。

24日は日本原子力研究開発機構も新型転換炉原型炉ふげんの請負企業の作業員1人の感染を公表した。

(取材班)